

他にも「知足者富」という言葉もあります。

中国の老子のことばです。足るを知るものは富む。

満足することを知っている者は、心豊かに生きることができる。というもの。



「知足のつくばい」

京都の龍安寺にある手水鉢(ちょうずばち)

写真のように手水鉢の真ん中に口という漢字と同じ形の四角があり、その四角と組み合わせるように上右下左とそれぞれ文字が刻まれていて、「吾唯足知」と読めるようになっているものがあります。

われ、ただ、たるをしる。私はただ、満足することだけを知っている。

水戸光圈が寄贈したものだそうです。

本の著者である小林静観さんは、頼まれた仕事をたんと受けてこなすので週の休みなし、月の休みなし、年の休みがないそうです。

何も起きないこと、ただ、淡々とした日々が淡々と過ぎていくこと、本の中では夢も希望もない状態だけど幸せと言っています。

ただ、呼吸をするだけで幸せ。

息をしばらく止めてみるとわかるらしいです。

呼吸を止めると苦しいので、空気のありがたさがわかるわけです。

似たように運動したあとに水が飲めなかったら、ごはんが食べれなかったら、とても苦しいですね。

そんなこと今の時代に起こるわけないんだから、この考え方は違うと考える方がいるかもしれませんが、世界のどこかではそんな苦しみの中で亡くなっていく人が存在します。

どういう過程で私たちは日本に生まれたかはわかりませんが、生まれてくる国や地域、環境が違えば大変な生活を強いられていたかもしれません。北朝鮮？イスラム国？などなど



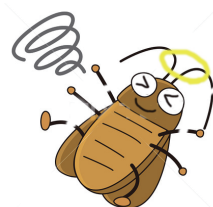
輪廻転生があるのかどうかわかりませんが、もし虫に、例えばゴキに生まれていたら、オーマイガーです。まあ、虫に心があるのかもわかりませんが。

また、逆があるかもしれません。家の中のゴキに生まれ変わった人生を想像してみた場合に、転生しても人間の心がそこに残っていて、人間に遭遇してしまって天に召されることになったら…

つぶしてくれてありがとう。アースで毒殺してくれてありがとう。

次は、何に生まれ変わるのかな～という思いで逝けるかもしれません。

考え方次第ですね。話がとんだかな。。。



話をもどし、仏教の教えには、虫は誰かが生まれ変わったもの、それが知人かもしれないから無益な殺生はしてはいけないという教えがあります。（※こんなことを書いていますが、私はゴキ瞬殺派です。）

また、日本人の食のあり方で魚の生け作りとか問われるものがありますが、

仏教のそういう教えがもし本当であるなら、凄く残酷なことをしています。

もし、人間が食物連鎖の頂点でなく、人間の上に恐竜？宇宙人がやってくる？

みたいな事がおこり、そのような目にあったらたまったもんじゃありません！

「うらみはらさでおくべきか～！呪ってやる～」とか言いながら食われるんでしょね。

ようね。

そう考えると、生きていられるだけで幸せと言えそうな気がしてきませんか？ 以上。

